

平成 22 年 12 月 1 日

日本ビジネス実務学会
役員各位

日本ビジネス実務学会
中部ブロック研究会
ブロックリーダー 岡野絹枝

平成 22 年(2010)度中部ブロック定例研究会開催のご案内

拝啓 年の瀬のみぎり、役員各位にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。平素当ブロックの各種活動に対し格別のご高配を賜り、ありがたく厚くお礼を申し上げます。

さて、今年度の中部ブロック研究会につきまして、下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。今年度は、共同研究 1 件、一般研究 7 件の発表を予定しております。また、学生プレゼンテーション・コンテストは 6 年目を迎えることができました。

年初ご繁忙の折りとは存じますが、万障お繰り合わせいただき、ご参加賜れば幸甚に存じます。

敬 具

記

日 時： 平成 23 年 1 月 8 日（土） 13:00（受付：12:30） ～ 9 日（日） 13:00

場 所： 富山国際会議場

富山市大手町 1 番 2 号 Tel(代)076-424-5931 Fax 076-493-7170

*アクセス：・ J R 富山駅より徒歩で約 15 分

・ J R 富山駅より市内電車（セントラム）で約 5 分/国際会議場前下車

URL： <http://www.ticc.co.jp/access/index.html>

参加費： 研究会参加費 会員 2,000 円（会員以外 2,500 円）

懇親会参加費 会員 6,000 円（会員以外 7,000 円）

その他： ご出席いただける場合は、開催事務局（大崎）までご一報下さるようお願いします。

同封： 研究会プログラム

以 上

ブロック研究会開催担当：

富山短期大学 大崎佑一

TEL 076-436-5146

E-mail: oosaki@toyama-c.ac.jp

日本ビジネス実務学会 平成 22 年度中部ブロック研究会 プログラム

日時：平成 23 年 1 月 8 日(土)・9 日(日)

会場：富山国際会議場

【1 日目】 2011 年 1 月 8 日(土)	
12:30～13:00	受 付
13:00～13:10	開会挨拶・事務連絡
13:10～13:50	総 会
13:50～14:00	休 憩
ブロック助成共同研究 最終報告	
14:00～14:30	<p>「起業意識を高めるビジネス実務教育」</p> <p style="text-align: right;">愛知学泉短期大学 川口 直子 名古屋経済大学短期大学部 水口 美知子 中部学院大学 河野 篤 高田短期大学 平田 祐子 愛知学泉短期大学 ○ 寺島 雅隆</p> <p>大学生の起業意識調査を基に、どのような授業の取り組みが、起業家精神を如何に高揚させるかを考え、実践した報告を行う。調査結果から、「グループ学習でリーダーを経験」「起業家を知ること」「中小企業経営者に接する」等が重要であると判断でき、ビジネス実務系の授業を通して実践した経緯を報告する。これらをビジネス実務教育に組み込んだカリキュラムを考案していきたい。</p>
14:30～14:40	学生プレゼンテーションコンテスト準備および休憩
学生プレゼンテーションコンテスト	
14:40～15:50	1. 岡崎女子短期大学 1年 国本 唯 「文化」
	2. 金城大学短期大学部 1年 金安 真奈 「社会人への第一歩 ～インターンシップを通して得たこと～」
	3. 愛知学泉短期大学 1年 野坂 志織 「『働く』を学ぶ楽しさ」
	4. 富山短期大学 1年 杉本 里奈 「私にもできることを探して」
	5. 金沢学院短期大学 1年 西 友里恵(他2名) 「オフィス・プロへの道」
	6. 岡崎女子短期大学 1年 土井 由紀子 「大学祭実行委員会を通して」
	7. 金城大学短期大学部 1年 田川 くるみ 「ホテルで必要なこと」
	8. 富山短期大学 1年 長森 里依子 「インターンシップ体験～誇りを持ってできる仕事～」
15:50～16:10	休 憩 審 査
16:10～16:30	学生プレゼンテーションコンテスト審査結果発表・表彰
一般研究報告	

16:30～17:00	<p>「コース別インターンシップによる就業力育成」 (平成 22 年度大学改革推進等補助金・大学生の就業力育成支援事業の採択報告) 名古屋経済大学短期大学部 水口 美知子</p> <p>入学前教育から卒業に至る一貫したキャリア教育の事例の提案である。学内インターンシップ(夏休み集中・必修)と学外インターンシップ(後期選択)では従来のインターンシップを発展させ、コースの専門スキルを強化する。学内ジョブカフェの設置、カウンセラーの配置、学生カルテの電子化で教職員間の情報共有化を図り、一層密なキャリア相談、就活相談に対応する。今回は既存科目の成果の検証の上に、新たな体制で取り組む学生の就業意識の向上と能力育成の方法を紹介するものである。</p>
17:00～17:30	<p>「カルテ・ディクテーションにおける必要技能調査」 岡崎女子短期大学 米本 倉基</p> <p>医師が最も秘書に求める業務のひとつに診療録やサマリーの音声代行入力、すなわち「ディクテーション」があるが、米国では一般的であるにもかかわらず、わが国における導入事例は多くない。本発表は、このディクテーション業務の専門職である「メディカル・トランスクリイパー(=MT)」の、職務実態を日米の現場調査によって報告し、その比較から、MTに求められる技能を検討し、大学・短期大学に求められるその教育法について考察したものである。</p>
17:30～17:40	事務連絡
18:00～19:30	<p>懇親会 会場：富山第一ホテル 〒930-0082 富山県富山市桜木町 10-10 TEL 076-442-4411 URL： http://www.hankyu-hotel.com/hotel/toyamadh/access/index.html ※なお、当日会場へは富山短期大学教員および学生が誘導いたします。</p>

【2日目】 2011年1月9日(日)

09:10～09:20	事務連絡
一般研究報告	
09:20～09:50	<p>「本学における簿記教育上の問題把握と仮説検証」 岡崎女子短期大学 河合 晋</p> <p>本研究では、本学の学生が簿記を学ぶ上での障害は何か、どのようにして簿記が嫌いになるか、簿記のどこが難しいのかという点について、現状の問題把握といくつかの仮説検証を実施した。本研究では、統計ソフトを用いて簿記会計への好き嫌いを諸要因によって判別分析し、何を乗り越えれば簿記学習が好きになるのかを特定することを試み、本人の思い込みや環境などがこれらのアンケートに差を生じさせるのかどうかを仮説検証した。</p>

09:50～10:20	<p>「大学・短大と専門学校とのボーダレス化についての一考察」</p> <p style="text-align: right;">愛知産業大学短期大学 奥村 幸夫</p> <p>高等教育機関という学校種の認識が今までとこれからでは変化してきている。法的には大学・短期大学は学校教育法第 1 条でいう学校種であり、同じく専門学校は専修学校の中で高校卒業者を受け入れる学校である。最近、両者においてボーダレス化という現象を生み、今後は両者の垣根が低くなっていく。両者の教育内容を明らかにし、その相乗効果を生み出す可能性を探ることは無意味ではない。その一考察を試みたい。</p>
10:20～10:50	<p>「プレゼンテーションツールとしての ISO32000-1 の活用について」</p> <p style="text-align: right;">岡崎女子短期大学 町田 由徳</p> <p>ビジネスシーンにおけるプレゼンテーション用のアプリケーションとして、Microsoft 社の「Power Point」がデファクトスタンダードとして浸透しているが、異バージョン間における互換性の低さ、フォントの埋め込みに関わる問題等、様々な欠点を抱えている。そこで、Power Point 形式に代わるものとしてオープンソースのフォーマットである「ISO 32000-1」のプレゼンテーションにおける活用の可能性を検討した。</p>
10:50～11:05	<p>休 憩</p>
11:05～11:35	<p>「企業倫理と大学教育について—企業不祥事における組織人格化の視点を踏まえて—」(仮)</p> <p style="text-align: right;">富山短期大学 矢口 義教</p> <p>企業不祥事には、従業員も関与する組織的なものもある。従業員は自身の行動の倫理的誤りを認識しながらも、上司部下間のパワー関係や職場の雰囲気から不祥事に加担する(組織人格)。本研究では、このような問題の防止を目的として、大学・短期大学教育における企業倫理教育について考察する。先行研究レビューによる課題抽出や各大学での企業倫理教育の状況などについて検討し、今後の企業倫理教育へ向けたメタ研究を進めていく。</p>
11:35～12:05	<p>「携帯メールによるネットワークとその応用」</p> <p style="text-align: right;">金沢学院短期大学 ○ 田畑 圭介 國田 千恵子 小林 淳一</p> <p>学生が日常的に利用している携帯メールを使って教員学生間のネットワーク作りを行い、学生生活の充実に寄与できるよういくつかの試みを行っている。一つは携帯メールを通じた事務連絡と学生教員間の質問・相談のやりとりである。二つ目は携帯メールを使ったアンケート調査の実施である。携帯メールと Excel を組み合わせることで、場所と時間に縛られずに調査を行うことが可能となる。三つ目は携帯メールを使った学生の就職活動支援である。内定者の体験談を配信し、学生の目線に立った情報を有効に活用してもらっている。</p>
12:05～12:10	<p style="text-align: center;">研究会講評</p>
12:10～12:15	<p style="text-align: center;">閉会挨拶</p>